

学長 インタビュー

八洲学園大学
やまもと つねお 山本 恒夫 学長

ヒューマンeラーニングを提唱し 生涯学習社会に貢献する

八洲学園大学は平成十六年（二〇〇四）に日本で初めてeラーニングによって学位や国家資格を目指すことができる大学として開学し、平成二十年（二〇〇八）には最初の卒業生を送り出しています。

学校法人八洲学園は昭和二十三年（一九四八）に設立し、集中スクーリング方式による通信制高校、学習障害の方々のための学校の開校など、公立の学校にできないユニークな教育を通じて新しい教育制度を提案し続けています。

今回のインタビューはインターネット大学としての八洲学園大学の将来構想と使命、わが国が目指すべき生涯学習社会の方向性を中心にお話を伺います。

臨教審答申から30年の成果

——臨時教育審議会答申で生涯学習社会への移行が提起されて約三〇年、その成果や評価、さらに今後目指すべきわが国の生涯学習社会の方向性について先生のお考えを伺います。

学長 臨時教育審議会から三〇年たちました。その成果としては、一つはわが国が生涯学習社会を目指すことを教育基本法で謳うに至ったということです。改正教育基本法の第三条に生涯学習の理念が入りました。これは

れているのは三点ほどです。

これからの生涯学習社会

一つは、これからの社会を考えた時に、「個人の需要」と「社会の要請」のバランスを保つようにしていくということです。今まで、ともすると個人の需要に配慮するという側面が強かったけれども、社会の存続を図るためには、社会に共通の課題に取り組む必要があります。それは必ずしも個人の興味・関心に合致しないのですが、そこを怠ると様々な社会的問題が生じるおそれがあります。ですから社会の要請にもっと応えなければいけない。それがこれからの生涯学習社会の課題として出てくるだろうということです。

二つ目が、「人間的価値」と「経済的価値」の調和を図ることです。戦後の復興以来、経済的価値にのみ重きを置く風潮が強まっ

非常に大きな成果だと思えます。

もう一つは、そのための教育学習システムの整備が進んできたということです。答申等では平成十五年の「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について」（中央教育審議会答申）の中で、「生涯学習社会については「国民の誰もが生涯のいつでも、どこでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価さ

ています。われわれの必要や要求を満たすために生産性を高めたり、ものの豊かさやサービスを追求することは大切ですが、それだけでは困ります。これからは人間的価値と経済的価値の調和を図ることを考えていく必要があります。心の豊かさ、人間的なつながり、奉仕の精神、教養、芸術文化など、これらはすべて人間的価値ですから、そういう方面も大事にして、うまく調和を図っていく必要があるだろうということです。

三つ目として、蓄積された知識・技術、情

教養教育は高等教育の大きな課題

——今お話に出た人間的価値ということでは、高等教育でも教養教育の重要性が叫ばれていますね。

学長 その通りです。教養教育はこれから

れるような社会を実現すること」とされているわけですが、それは実は情報提供とか学習相談等々の学習機会等の選択援助の仕組みの整備や、学習成果の評価・認証の仕組みの整備などに裏打ちされるわけです。ですからその部分の整備を進めてきました。その中で立ち遅れているのは学習成果の評価・認証のシステムですが、文字通り少しずつですが、漸進的なアプローチを進めてきました。昭和五十六年に「生涯教育について」という中央教育審議会の答申が出ましたが、その時と四半世紀たった今とを比べていただくと、どのくらい整備が進んできたのかわかると思います。それが臨教審から今日までの成果、あるいは評価ということになると思います。

——仕組みについてはそのように整備されつつあるのですが、ではこれから先の生涯学習社会の目指すべき方向ということになると、あまりはっきりとは出ていません。中教審では生涯学習分科会などで平成十六年ごろにそういう議論をしていました。大体の合意が得ら

報を活かして新たな創造や工夫をする役割が生涯学習には求められると思います。いつの時代でも伝統を継承しながら新しいものを創造していく必要があるわけですが、これは学問、芸術、スポーツなどに限らず、長年にわたって培ってきた文化や日常生活の中でもそういうことをやっていく必要があります。それによって二十一世紀の日本は新たな創造ができる社会に発展していくのではないのでしょうか。方向性としてはこの辺りが打ち出されています。

の高等教育の大きな課題だと思います。ある町の町長が「従来は経済的な価値を追求する街づくりをしてきた。でもこれからは人間を大事にする街づくりが必要だ」とおっしゃっ

ていましたが、まさにそこだと思います。経済的価値だけを追求していくことのおかしさに社会全体が気付き始めてきていることだと思います。

——以前は教養じゃ飯を食えないと言われていました。

学長 それは実は明治のころの失敗が



山本 恒夫 学長

生 年 昭和12年5月5日
出 身 東京教育大学（現筑波大学）教育学部、同大学院教育学研究科博士課程
学位・称号 教育学博士、筑波大学名誉教授
専 門 生涯学習学
職 歴 筑波大学教授、大学評価・学位授与機構教授などを経て、平成16年（開学時）より八洲学園大学教授、平成20年同学長
学会活動 日本生涯教育学会会長を経て、現在同兼任顧問
社会的活動 生涯学習審議会委員（社会教育分科審議会会長）、中央教育審議会委員（生涯学習分科会会長）などを歴任
著 書 『21世紀生涯学習への招待』など多数
特 色 我が国の教育・学習システム・ネットワーク理論を構築し、先導的実践をリードしてきた生涯学習研究の第一人者

響いているんですね。自由民権運動の頃、有料の学術講演会で政治宣伝をやるようになってしまい、一般の人たちが学術講演会に行かなくなりました。それで有料の学術講演会ができなくなり、仕方がなく無料で行うことになってしまった。以来、日本では教養にはお金を払わないという風潮になってしまったんです。

でも、それは今までのことです。これからは例えば大学が開講する有料の公開講座などにも人は来るのではないのでしょうか。高等教育でも学生に対して教養教育を重視していくとともに、公開講座など様々な形で社会に対して情報発信をしていくことで社会も変わってくるのではないかと思います。

道徳なき経済は犯罪である

実は経済と道徳の調和ということは昔からずっと言われていることです。日本では江戸時代から言われています。アメリカも今の金融危機の前に、やはり経済と道徳の調和が必要だと言いはじめました。アメリカの動きが日本にも伝わってきているんですが、やはり経済活動をしていくと、どうしても道徳が問われるんですね。今、大手企業でも、経済と道徳の調和にかなり意を用い始めているようです。

なるほどと思ったのですが、「道徳なき経済は犯罪である、経済なき道徳は寝言にすぎない」と二宮尊徳が言ったそうです。「道徳」という言葉は日本ではアレルギーがあるよう

——八洲学園大学は、わが国唯一の生涯学習学部生涯学習学科として教育研究を行っています。今年二月には「ビジョン二〇〇九」を発表されました。八洲学園大学のグランドデザインと使命についてお尋ねします。

学長 本学は、教育立国における生涯学習社会の実現に貢献することを考えています。また、これから先の知識基盤社会や高度情報通信ネットワーク社会をつくり、その発展を図る人材の養成にわれわれは貢献していく。こうした社会の実現を支えるのは、一言で言えば「人間力」です。人間は常に知識・技術の習得を行いながら社会を担っているわけですから、その知識・技術の習得を支援する。それも生涯にわたって知識・技術を習得し、人間力を高め、あるいは維持していくことを支援していきます。

本学はわが国最初のインターネット・ライブ配信による講義を行う大学です。ミッションとしては、人間の要素を入れた新しいeラーニングへの道を開くということです。

eラーニングに対する批判は以前からあります。eラーニングでは学生はパソコンに向かって送られてくる教材を勉強してレポートを作成し、大学には添削員がいてレポートを添削するだけで、教授と学生の人間的な接触がないではないかというのです。これはポイントを突いた批判です。本学を設立する際にも、設置委員の方々や様々な大学の方々にeラーニングはいいけれども、果たして人間的な接触なくして大学教育が成り立つのかと言われました。

ですので、私どもは人間的価値と言っていますけれども、人間的価値を大切にすることを高等教育で積極的に進める必要があるのではないのでしょうか。

地域の力を地に足の着いたものに

生涯学習社会の実現に向けた取り組みの中で、よく「地域の教育力」ということが言われていますが、「地域」というものについて先生のお考えを伺います。

学長 「地域」というとつかみどころがありませんね。例えば今、学校支援地域本部などで地域の教育力を高める取り組みを行っていますけれども、社会は絶えず変化して動いていきますし、こうした事業もそれに応じて変わっていきます。そうすると何か流行のようになりかえりません。予算も三年ごとに区切りを切りますから、地域の人たちが集まって何かを行う機会も流動的になってしまい、地に足が着かない恐れがあるわけです。ですから、何とかして地に足の着いたものにしていく必要があります。

学校支援地域本部は「地域コーディネーター」「学校支援ボランティア」「地域教育協議会」から構成されています。この中の地域教育協議会というのは、もともとは新しい教育プロ

わが国初のインターネット・ライブ配信講義を行う大学

それについては、私どももその通りだと思っています。やはりヒューマン・ファクター（人間の要素）を入れる必要があると考えました。本学では、学習効果をあげ、各種トラブルの解決に重要な役割を果たすヒューマン・ファクターを効果的に導入した「ヒューマン・eラーニング」を提唱しています。平成十六年に開学し、十七年にはその具体化を始めた。人間的な要素が入ることによって、今まで本学の構想に批判的だった方々も納得してくださりました。

生涯マネジメント支援

今年二月に「ビジョン二〇〇九」をまとめ、この四月から生涯学習学部生涯学習学科に改組して新たにスタートするといふとき、われ

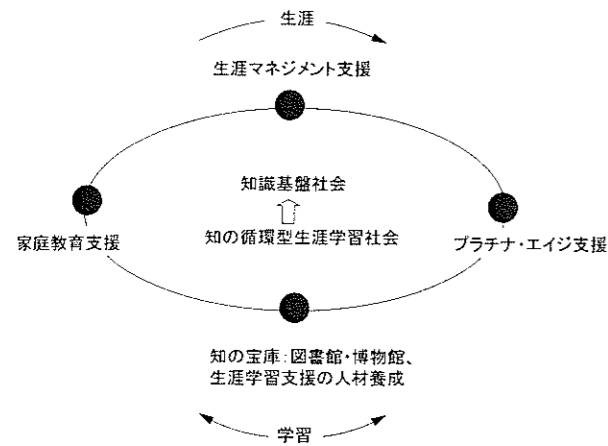


図 八洲学園大学生涯学習学部生涯学習学科 (09・4)

グラムを開発していく中で、例えば教育会のようなものをつくりたいという声が出てきたことから始まっています。

教育会というのは明治からずっとあるのですが、高齢化などでうまく機能しなくなっていました。そこを「学社融合」でやるようにしたところ、若い方も来るようになりました。校長先生も来るし、地域の長老の方も来るようになった。いつも黙って地域を支えてくれているような「地域の伏流水」とでも言ったらいいような方たちが来てくれるようになったのです。

こうした経験がありましたので、地域を支えている伏流水のような人たちに声をかけて集まってもらい、常にどうしたらいいかを考えていく組織をつくったらどうかというのが地域教育協議会です。予算が三年で変わっても、その組織は継続するようにし、そこを核にして「地域の力」というものをつけていけばよいのではないかと思います。

実は明治の頃から日本にはこういう仕組みがあるんです。戦前、戦後を通じて、優良市町村として常に名前が出てくる市町村があります。それは何故か。結局はその地域の伝統で、地域の人たちが今までの人たちのやってきた伝統を黙って受け継いでいるんですね。そういう形で地域の力が定着していったらいいと思います。

われは生涯学習社会に貢献できるような教育研究をしていきたいということで考えたのがこの図です。

この中で「生涯マネジメント支援」という考え方を打ち出しています。様々なことについてマネジメントが言われていますが、人間の一生にわたってのマネジメントということで「生涯マネジメント」という概念の提唱を始めています。研究面も教育面も充実させていきたいと考えています。

シルバー・エイジからプラチナ・エイジへ

それから「プラチナ・エイジ支援」を打ち出しています。中教審の生涯学習分科会などでも申し上げているのですが、一般には高齢者は「シルバー・エイジ」と捉えていると思います。シルバーというのは高齢者に対するある種の固定概念から出てきているのではないのでしょうか。高齢者の持っている知恵とか知識・技術の価値は、シルバーよりもむしろプラチナだと思います。ですから高齢者がシルバー・エイジからプラチナ・エイジへ飛躍することを目指した支援を考えているわけです。

人生八〇年の時代とすると、社会から引退した後に三〇年もあるわけですよね。その先は何もすることがないのではなくて、例えば社会に貢献できるように一つのことを極めていくようにしたらと考えています。

高齢期になると一つのことを極めるということに価値を見いだすようになります。しか

も、それは社会にとっても役に立ちますから、まさにプラチナの価値があります。そのため公開講座を準備しているところですが、

ヒューマンeラーニングを推進する

—すでにお話に出ています。八洲学園大学の特色ある教育・研究について伺います。

学長 今の続きになりますが、本学はヒューマンeラーニングを推進していきたいと考えています。これまで実験的に進めてきたのですが、やはりeラーニングにおいても人間的な接触が必要ということで、先ほどのヒューマン・ファクターを入れた「ヒューマン・プラットフォーム」や「ヒューマン・スポット」をつくり、特色として打ち出します。

—eラーニングの弱点を補う話を伺いましたが、へき地や離島の方にとってはeラーニング... (text continues)

生涯マネジメントとプラチナ・エイジは、これからの新しい研究課題でもあり、教育課題でもあると考えています。

—学生たちの交流はいかがですか。学長 最初は学生もeラーニングだから交流... (text continues)

eラーニングの可能性を開くインターネットでの学園祭

—学生たちの交流はいかがですか。

学長 最初は学生もeラーニングだから交流なんてできないと思っていたようですが、日頃の学習成果を発表して社会に訴えるような機会をつくりたいと言うようになりました。われわれも応援したところ、一昨年第一回の学園祭をインターネット上で開催しました。これには専門家「学園祭?」「インターネットで開けるの?」とびっくりしました。学習成果の発表をライブで行ったり、作詞・作曲した歌を発表したり、フォトコンテストを行いました。第二回の昨年は川柳コンテストなどをやりました。今年は第三回を迎えま

るようになるべく素朴なシステムにしてあります。

パソコン支援は万全

—学生支援の取り組みについて伺います。パソコンの苦手な人もいます。学長 それは設立時から問題になりました。学生支援センターやメディアセンターで、パソコンのわからない学生から連絡をもらって対応しています。わかりやすいマニュアルも用意しています。パソコンについてはしばらくたつとできなかった学生も達者になりますね。

最大の宝は人とのつながり

—逆言えば、本学では「教員一人一人が自律し、自ら立つこと」によって、自らの収入を確保する... (text continues)

—最後にありますが、初等中等教育にかかわる子どもたちの教育の座標軸をどこに据えたいのか、先生のお考えを伺います。学長 生涯学習の観点から見ると、例えば子どもたちに学び方を教えるとか、学ぶ子を育てるといことは、すでに昭和五十六年から言われています。

生涯学習パスポートを

—最後にありますが、初等中等教育にかかわる子どもたちの教育の座標軸をどこに据えたいのか、先生のお考えを伺います。学長 生涯学習の観点から見ると、例えば子どもたちに学び方を教えるとか、学ぶ子を育てるといことは、すでに昭和五十六年から言われています。

教員一人一人が自律し自らの収入を確保する

—学長のリーダーシップとガバナンスについて、先生のお考えを伺います。学長 社会の動きが激しい時代に対応するために、すでにPDCAを導入しており、絶えずプロジェクトを学長提案でつくっていくというやり方をしています。それによって変化に対応できる柔構造の大学にしていくということが一つ。

大学の原点に戻ったガバナンス

—また、本学はある意味で大学の原点に戻っ